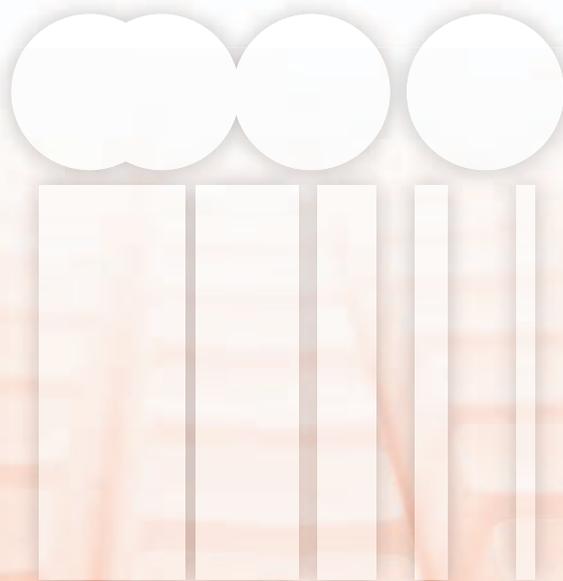


# DISCLOSURE

## 茨城銀行の現況 2008

IBARAKI BANK REPORT

中間期



I&Aコミュニケーション  
**茨城銀行**

本冊子については、平成21年1月5日現在の諸資料に基づき作成しております。

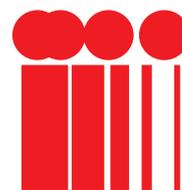
## CONTENTS

ごあいさつ	1
平成20年度中間決算について	2
トピックス	4
役員・組織図	6
財務・資料編	7
連結情報	8
単体情報	18
自己資本の充実の状況	34
ネットワーク	42
銀行法施行規則に基づく開示項目	45

## 当行の概要

(平成20年9月30日現在)

名 称	株式会社 茨城銀行 THE IBARAKI BANK,LTD.
創 業	大正 10 年 6 月 9 日
設 立	大正 10 年 11 月 1 日
本店所在地	〒310-0021 茨城県水戸市南町 1-3-1 TEL.029(231)3171(代)
資 本 金	155 億円
総資産残高	7,555 億円
預金残高	7,133 億円
店 舗 数	61 店舗
ATM台数	197 台(うち I-NET60 台)
従 業 員 数	934 人(嘱託、臨時雇員、出向者を除いております)
U R L	<a href="http://www.ibagin.co.jp/">http://www.ibagin.co.jp/</a>



### シンボルマークの開発意図

このマークは茨城銀行の頭文字 i とひとの姿をモチーフとして開発されました。地域社会に対し、活発にコミュニケーションを行うことによって地縁を深め、またお客さまと行員のふれあいを大切にするによって人縁を強めていくといった茨城銀行の積極的な地域密着の姿勢、そして未来に躍進していく姿を表現しています。

## ごあいさつ

---



皆さまには、平素より茨城銀行グループをお引き立ていただき誠にありがとうございます。  
茨城銀行をより一層ご理解いただくためにディスクロージャー誌「茨城銀行の現況 2008 中間期」を作成いたしました。本誌におきましては、平成 20 年度中間期の業績を中心に、営業活動の現況や地域貢献活動などについて詳しく説明しております。ご参考にしていただければ幸いに存じます。

平成 20 年度上半期の国内経済においては、エネルギー・原材料高の影響や輸出の増勢鈍化が続いたことなどから景気が減速し、国内金融市場においても、欧米金融機関の経営破綻などを背景とした国際金融市場の混乱の影響を受ける厳しい展開となりました。一方、茨城県内の経済動向につきましても、住宅投資や公共投資は低調に推移し、個人消費についても伸び悩み、企業、家計ともに足踏み状態が続きました。

こうしたなか、平成 20 年度上半期は、11 年ぶりの新店舗となる「みどりの支店」の開設等、お客さまの利便性向上に努めるとともに、「ビジネス交流会」の開催を通じてお取引先企業に対する積極的な支援を実施してまいりました。

今後も、地域金融機関としての役割を自覚し、地域のお客さまの多様なニーズにお応えして良質な金融サービスを提供することにより、経営理念であります「地域で最も信頼される銀行」を目指し、株主の皆さまからのご期待に応えられるよう役職員一致団結し努力してまいります。

何とぞ今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役頭取 **溝田 泰夫**  
平成 21 年 1 月

# 平成20年度中間決算について

## 資産・負債の状況

### ■ 預金残高



お客様のニーズの多様化から、生命保険等の預り資産に一部振り替わる動きもあり、個人預金が平成20年度上期中に20億4百万円の減少となりましたが、預金全体では平成20年度上期中に41億1百万円増加の7,133億2百万円となりました。

### ■ 貸出金残高



住宅ローンにおいては、改正建築基準法の影響による住宅着工件数の減少で、平成20年3月末に残高が減少しましたが、平成20年度上期中に7億円の増加に転じております。

貸出金全体においても、平成20年度上期中に7億円の増加となりました。

## 損益の状況

収益の確保に向け貸出金の増強に取組むとともに、手数料収入の増加や有価証券の運用強化にも取組みましたが、茨城県内経済減速の影響や欧米金融機関の経営破綻などを背景とした国際金融市場の混乱の影響もあり、資金利益、役務取引等利益ともに前年同期比減少となり、コア業務純益は前年同期比6億92百万円減少の14億77百万円となりました。

さらに、景気の減速に伴う貸出資産内容の悪化や、グループ全体の貸出資産を抜本的に見直したほか、平成20年10

月に発生した企業倒産の事象に対しても追加的に貸倒引当金を計上した結果、不良債権処理額等の与信関連費用が前年同期比2億12百万円増加の21億8百万円となり、経常利益は前年同期比3億60百万円減少の1億73百万円の経常損失となりました。また、より一層資産の健全化を進めるために繰延税金資産を4億90百万円取崩したこと等により、中間純利益は前年同期比4億78百万円減少の5億55百万円の中間純損失となりました。

### ■ コア業務純益

(単位:百万円)

	金額
平成18年9月期	2,866
平成19年9月期	2,170
平成20年9月期	1,477

### ■ 経常利益

(単位:百万円)

	金額
平成18年9月期	1,246
平成19年9月期	187
平成20年9月期	△ 173

### ■ 中間純利益

(単位:百万円)

	金額
平成18年9月期	1,106
平成19年9月期	△ 77
平成20年9月期	△ 555

● **コア業務純益とは?** コア業務純益とは、業務純益から一般貸倒引当金の繰入額と国債等債券の売却損益等を除いた利益です。

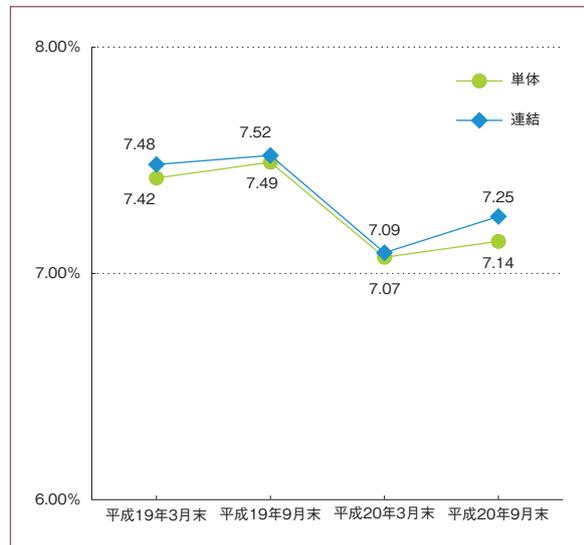
## 自己資本比率の状況(単体・連結)

中間純損失を5億55百万円、市場環境の悪化により有価証券評価損を21億71百万円計上したこと等により自己資本は減少しましたが、補完的項目に算入される劣後ローンの調達による自己資本増強を実施したため、単体自己資本比率は0.07ポイント上昇の7.14%になりました。国内基準の4%を3.14ポイント上回っております。

連結ベースにおいても、同様の理由により、連結自己資本比率は同0.16ポイント上昇の7.25%になりました。

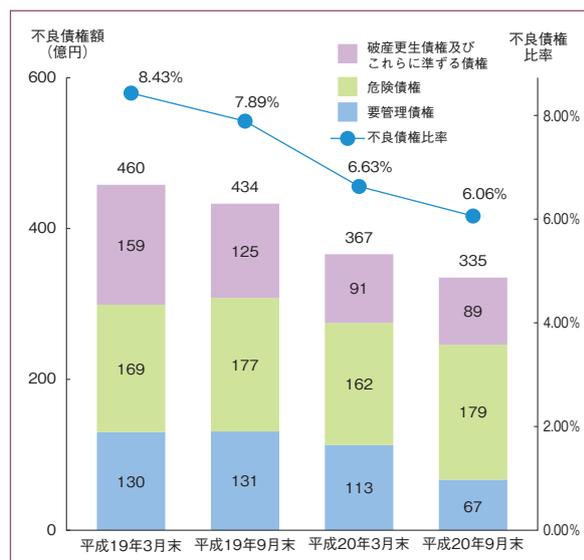
(単位：百万円)

	単体	連結
自己資本額 ①	28,622	29,127
基本的項目	16,897	17,230
リスクアセット等 ②	400,617	401,619
自己資本比率 ①÷②	7.14%	7.25%



## 不良債権の状況

積極的な企業再生支援による貸出先のランクアップを実施した結果、金融再生法ベースの不良債権額は平成20年度上期中に31億24百万円の減少となりました。金融再生法ベースの不良債権比率は平成20年3月末比0.57ポイント改善し6.06%となりました。



## 地域貢献活動

### ◆ 各種相談会の実施

年金に関する様々なご質問に、社会保険労務士がわかりやすくお答えする「年金相談会」や、休日にゆっくり相談できる「休日お客さま相談会」を開催しております。平成20年度上期は、以下のような開催状況でした。

相談会	開催回数	相談人数
年金相談会	29回	327名
休日お客さま相談会	65回	395名

### ◆ 特別養護老人ホーム訪問

新入行員研修の一環として昭和53年より特別養護老人ホーム「西山苑」（常陸太田市）で奉仕活動を行っております。平成20年4月には61名の新入行員が参加し、清掃活動、介護体験等を行いました。当行では、お年寄りとのふれあいを通じて、やさしい心、人をいたわる心をもった人材の育成をめざしております。



### ◆ 地域行事への参加

地域の行事に積極的に参加しております。平成20年度上期は「水戸黄門まつり」などの行事への参加協力を通じて、地域の皆さまとの交流を深めております。



### ◆ 振り込み詐欺事件を未然に防止

平成20年度上期は、旭支店、竜ヶ崎支店、大和支店の3カ店で振り込み詐欺等の被害を未然に防止し、警察署より表彰されました。

大きな社会問題となっている振り込み詐欺の未然防止への対応は、地域金融機関にとって大きな課題であり、今後も、お客さまが被害に遭われないよう、注意喚起に努め、振り込み詐欺の未然防止に取り組んでまいります。



## 主な出来事

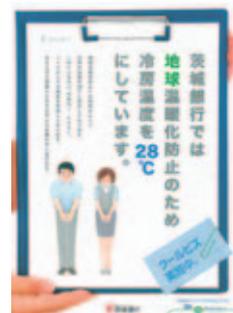
### ◆ 溝田新頭取就任

平成20年6月、川嶋 烈は頭取を退任し相談役へ、後任の頭取には溝田 泰夫が就任いたしました。当行は新頭取のもと、地域金融機関としての役割を自覚し、地域のお客さまの多様なニーズにお応えして良質な金融サービスを提供することにより、地域で最も信頼される銀行「Most Reliable Bank (MRB)」となるよう努力いたします。



### ◆ 「チームマイナス6%」への参加および「クールビズ」の実施

地球温暖化防止への取り組みの一環として、環境省が推進する「チームマイナス6%」へ参加し、室内温度を28℃に設定するとともに、平成20年7月1日から平成20年9月30日まで「クールビズ」を実施いたしました。



### ◆ 懸賞金付定期預金 「夢心(ゆめごころ)定期Ⅱ」 キャンペーンの実施

夏のボーナスキャンペーンの一環として懸賞金付定期預金「夢心定期Ⅱ」を平成20年6月2日から平成20年9月30日まで取扱いました。



### ◆ みどりの支店オープン

平成20年7月8日に、つくばエクスプレス(TX)「みどりの駅」駅前に、当行で61番目の店舗となる「みどりの支店」を新設いたしました。

専用ブースを備えた全自動貸金庫を155個、資産づくりのご相談がゆっくりできる個別相談ブース、金融情報をタイムリーにご覧になれるインターネットコーナー等を設置する等、利便性を配慮した店舗としました。



### ◆ イオンモール水戸内原 出張所(店舗外ATM) の設置

お客様の利便性の向上を図るため、平成20年7月22日に、イオンモール水戸内原内1階にATM出張所を設置いたしました。



### ◆ イオン銀行とのATM提携

お客様の利便性の向上を図るため、平成20年9月2日より株式会社イオン銀行とのATM提携を開始いたしました。

イオン銀行とのATM提携により、当行のキャッシュカードが、全国の「イオンショッピングセンター」や総合スーパーの「ジャスコ」等に設置されておりますイオン銀行のATMでご利用いただけると同時に、イオン銀行のキャッシュカードも当行のATMでご利用いただけ、利便性が一層高まりました。

### ◆ 第3回いばぎんビジネス交流会の開催

平成20年9月4日に第3回いばぎんビジネス交流会を開催し、70社150名の参加をいただきました。

第一部の「プレゼンテーション」では、参加企業9社による自社の製品・技術等の説明および仕入先・商品企画・共同開発の協力先募集等が行われ、第二部の「商談会・交流会」では、参加企業同士の情報交換や商談が行われました。

今後も、お取引先企業のビジネスチャンス拡大のため、積極的な営業支援を実施してまいります。



### ◆ 「エマージング・カレンシー・債券 ファンド(毎月分配型)」の取扱い開始

多様化するお客様の投資ニーズにお応えするため、平成20年9月24日より、現地通貨建てのエマージング債券を実質的な主要投資対象とする「エマージング・カレンシー・債券ファンド(毎月分配型)」の取扱いを開始いたしました。



### ◆ 新店舗の開設計画

店舗網の充実とお客さまの利便性の向上のため、平成21年3月24日に常磐線ひたち野うしく駅東側に「ひたち野うしく支店」の開設を予定しております。



# 役員・組織図

## 役員

取締役頭取 (代表取締役)	溝田 泰夫	取締役	根本 光男	経営管理部長
取締役副頭取 (代表取締役)	中島 昭義	取締役	渡辺 実	県央ブロック統括長 兼本店営業部長
常務取締役	中澤 民雄	監査役 (常勤)	五島 裕輔	
常務取締役	立原 和則	監査役	林 博義	
常務取締役	植木 誠	監査役	友常 信之	
取締役	豊崎 寛			

## 組織図

